

イギリス南部の小さな町に生まれ、空想の友達“Ash”と一緒に大人になったという Julian Hibbard。彼はどこか懐かしい静謐なスタイルイメージの上に、割れたガラスを噛んだようなノイズが共存しているような写真世界を作り続けている。そんな彼が表現手段としてフォトグラフィーを選んだのは、自分が当時興味があったものを表現するのにカメラが一番合っていたからだという。「今思い返せば、それは主にセルフポートレイトや舞台を通して表現される自省の

念だった。もともとは、カメラを通して経験を確実なものにできることに惹かれ、また、語りの部分を排除できることが楽しかったんだ」。そんなプロセスのなかで、彼はカメラが持っているアンヴィヴァレンスについて知ったという。「それは、“真実を伝えながら、欺く”ということ。いろんな表現方法を試してみたけれど、写真が持っているこの強烈な感覚に最後は引き戻されてしまう。僕は、夢によく似ている“隠された文脈”や視覚論理を、様々

なやり方で表現することが好きなんだ。それによって見る人たちはその“場面”に深く引き込まれてゆく。混乱や興奮やつながりを感じさせてくれる感覚を表現することにこだわっているんだよ」。時間が経つにつれて彼にとっての写真の意味が変化していくなかで、どうしても変わらないことがあるという。それは「相反する考えを描く」こと。誘惑や美を描きながら、不安にさせる暗さもちゃんと描かれている。まるでヴィッド・リンチの作品のよう

に、夢のような曖昧さがそこにはある。確かに写真の上に描かれた落書きやPhotoshop的に消されたイメージがある種の不安を効果的に掻き立てている。「2009年にひとつの転機があったんだ。それは、科学記号やダイアグラムの美しさと、それらが現実世界との関係性を定義しているとういことについて考えるようになったこと。そしていつしか、その美しさを用いることで言葉を発することなく物語を描き出せるのではないかと思うようになった。それが

QUOTATION'S  
CREATIVE GALLERY

## Julian Hibbard

text: Daisuke Nishimura

闇を切り裂くフラッシュライトと科学記号の物語

きっかけで、2011年に出版した『Schematics: A Love Story』という作品集が生まれたんだ」。この本には、確かに写真は1枚もなく、その代わりに抽象的な線や矢印や数字などが、まるで不確実性や感覚が形になったかのよう描かれている。さらに2014年、自分の息子が生まれたことによって、もうひとつの転機が訪れた。「それまで新しい作品を作っていなかったことと、子育てをきっかけに、現代のデジタル(非接触)世界への依存について考えるようになった。こ

の経験がきっかけになって、過去のイメージをもう一度作品にしようと思ったんだ」。そうして最初に生まれたのが、『Transference』シリーズ。作品集『Schematics: A Love Story』で疲れた時空間を表現する記号が、写真の上にコラージュされている。そうしてJulianはもう一度、“写真”という表現の中に自分の居場所を見つけようとし、もうひとつのシリーズ『Memory Index』が生まれた。これは記憶を構築するよりも“直接的”に伝えることのできる、Julian独自の

作品世界であり、またそれは、彼がこだわり続けるアンヴィヴァレンスに対する新しいアプローチでもあったのだろう。「暗闇の中でフラッシュを使った写真は、僕がこだわっているモチーフのひとつであり、見ることでできない世界や、見落としてしまう世界の姿を描き出すことができる。強烈なスポットライトは、そこに舞台を作り出し、光の円は黒い闇へと滑らかにつながっていく。それは舞台を同じように、“重要なもの”だけが照らし出されるんだ」。光を脅かす“外界”と

しての闇というシチュエーションは、そこに潜在する心理的を描き出し、「見てはいけないものを見てしまった」というような感覚さえも白日のもとにさらけ出してくれるという。

これまで彼が出版した2冊の本を、日本でも出版したいと考えているというJulian。「もっと日本人たちと繋がりたいんだ。きっと僕の作品には新しい発見があるだろうから」。ぜひとも息子さんとともに、光と闇が溢れる国日本へ、ようこそ。



1.



2.

1. 1948 Buick Roadmaster Sedanette

2. Legs #4



Julian Hibbard

NYを拠点に活動中のフォトグラファー。イギリス南部の小さな町で生まれ、13歳の時に寄宿学校へ入学。18歳よりアートスクールへの入学を希望し、その4年後ロンドンのキングストン大学の学士を取得。プリティッシュ・カウンシルの派遣によりチリで教師をした経験も持つ。現在は2歳の子供とともにNYで暮らしながらシンプルライフを送る。現在もフィルムでの撮影を続けている。

[www.julianhibbard.com](http://www.julianhibbard.com)

<https://www.instagram.com/julianhibbard>